

平成30年度学校評価について **総 評**

長崎県立長崎北陽台高等学校

【職員の自己評価について】

(1) 確かな学力の育成

全ての項目で5, 4の割合が90%近い高い評価となっており、職員も生徒の学力向上に日々務めている。ただ、2の家庭学習時間に関しては、指導は行うものの週あたりの学習時間がまだ目標には達していない生徒が多くいるのが現状で、3, 2が10%を超えてきている。

(8) 潤いのある学校環境づくりの推進

15の施設設備の充実は、事務室とも協力し改善に取り組んでいるが、築40年を迎え、古くなったところが目立つようになってきており、今後も適宜改善していく予定である。

(10) その他

18, 19, 22, 23, 26, 27の6つの小項目で2, 3の評価が10%を上回っているが、19, 22, 28については昨年と比べてかなり改善が進んでいる。特に28の「業務の効率化」については「働き方改革」の流れの中、会議の精選や時間の工夫など進めている。他の項目についても今後対策を講じていきたい。23の「政治や選挙への関心」については選挙権が18歳以上に引き下げられたため3年生の一部に発生するものの、在学中に実施された選挙はほとんどなく、授業では扱うが、関心を高めさせるまではいたっていない現状である。

【生徒評価について】

全体を通して生徒は高い評価をしており、また昨年と比較してもほぼ同じ評価であった。本校の生徒の多くが充実した学校生活を送っているものと考えられる。しかし3, 2の比較的否定的な意見が10%を超える項目も19/26と半数を大きく超えておりまだまだ改善すべき点もあることがわかる。特に22の「理数科と普通科の学習意欲」に関しては、理数科の課題研究発表を普通科の生徒が聞く機会を2, 3年でそれぞれ設定するなどしているが、さらなる方策が必要である。

【保護者評価について】

全体的に肯定的な意見が多く、生徒とともに保護者も学校の教育に理解を示している。アンケートに関して「わからない」の回答が10%を超えたのが15項目、その中でも20%を超えたのが4項目あった。保護者がわかりづらい項目もあるが、学校が行っている取り組みについてもっと情報発信を行うとともに、保護者に関心を持ってもらう取り組みを進めていく必要がある。

昨年と比べて5，4の数値が5%以上変化した項目はない。3，2の値が10%を超える項目が11項目、そのうち20%を超えたのが生徒と同じ17「理数科と普通科学習意欲を高めあう」項目であった。「確かな学力」、「進路指導」に関してもやや否定的な意見が10%を超える項目が5項目あることは残念ではあるが、学校の根幹の指導部分でもあり、より一層生徒、保護者が成長を実感できる教育に務める必要がある。

最後に三者とも肯定的回答が80%を超える項目が9項目あり、「生徒一人一人と向き合った進路指導」「欠席しない指導」「さわやかな挨拶や容儀」「文武両道」「保護者との連携」など学校運営として大切な部分の多くで共通意識が醸成されていることは、本校が自信をもって外部にアピールできるところである。今後さらに学力や部活動など、地域・保護者の期待に応える学校として発展するために努力していきたい。